

道徳学習資料 平成27年11月編

生命尊重の授業 どう生きることが頑張って生きることにつながるか理解させる

11月6日に輪島市鳳至小で行われた中部地区道徳研究大会で公開された5年生の生命尊重の授業記録です。資料は、「その思いを受け継いで（私たちの道徳5・6年）」。

【資料の概要】大好きな祖父の余命3か月を知らされた大地は、毎日お見舞いに行き励みますが、死を迎える。祖父の枕元から、弱々しい文字で書かれた、2か月先の大地の誕生祝いの手紙が見つかる。

研究会のために、授業者は導入で自分の娘の誕生映像を見せるとともに、終末で看護師(GT)に命の話をしてもらうよう準備しました。

- T 1 映像を見てもらいます。(2分間)
T 2 この赤ちゃんは私の子供です。この子の命は誰のものですか。
C 1 自分の命 (C 2、C 3も同じ)
T 3 今日は、命について考えていきたいと
思います。では、資料を読みます。
T 4 資料範読 (5分)
T 5 おじいちゃんは手紙を書いていると
き、どんなことを考えていたのでしょうか。
C 4 誕生日おめでどうです。
C 5 この手紙を見ってくれるかなあです。
T 6 この手紙を書いているときに、じい
ちゃんは大ちゃんの誕生日まで生きられると
思っていたのでしょうか。
C 6 あとどのぐらい生きられるだろうか。
T 7 手紙はどんな文字だったの?カ一杯、
元気一杯書いてあった?違うね。その時に、
何を考えていた?一緒でもいいですよ。
C 7 自分は死ぬかもしれないけど、誕生日
を祝いたいです。
T 8 今までの意見をまとめますよ。(それま

で出された意見のキーワードを板書)

- T 9 このようにじいちゃんは考えていたの
ね。この後、大地は手紙を読むのですが、
大地は手紙を読んでどう思ったでしょう。
C 8 僕のために書いてくれたんだね。
C 9 手紙を書いてくれてありがとう。
C 10 ありがとうだと思います。
T 10 何に?・・・手紙書いてくれたから?
みんなどう思う?(再度手紙を読む)
C 12 まだまだ長生きしたかったんだな。
C 13 死ぬと分かっていたのかな。
C 14 悲しい。
T 11 (後半意見のキーワード板書) じい
ちゃんの気持ちは手紙で伝わったんだね。で
は、大地はこれからどうやって生きていけ
ばいいと思うか考えを書いてもらいます。
C 記述(多くの子が書けずに考え込む)
T 12 机間指導で個別にアドバイス(5分間)
T 13 (授業開始21分) まだ書けてない人も
いますが、発表してもらいます。
C 15 命を大切にしたいと思った。
C 16 じいちゃんの方まで生きていく。
C 17 おじいちゃんの方まで長く生きる。
C 18 じいちゃんの方まで楽しく生きる。
C 19 おじいちゃんの方まで長生きする。
C 20 じいちゃんは天国でずっと見守って
くれているから、大ちゃんはじいちゃん
のことを忘れないで頑張る。
C 21 じいちゃんが死んだことは悲しい
けれど元気に生きていく。
C 22 じいちゃんが悲しまないように精一杯
笑って生きていこうです。
C 23 おじいちゃんを悲しませないように、

毎日笑顔で暮らそうです。

T14 笑顔と同じような人はいませんか。

C24 じいちゃんのために幸せに生きる。

C25 じいちゃんのために幸せに生きる。

C26 おじいちゃんことは忘れて生きていこうです。(C 笑い)

C27 悲しい時やつらい時はおじいちゃんことを思いだそうです。

T15 本当にみんなはそうできますか？

C (口々に) できる。

T16 できる人(4人挙手)何でできると思うの？

C27 思い出すだけだから。

C28 じいちゃんを思い出すだけだから。

C29 苦しい時に思い出すだけだから。

T17 思い出して終わり？それでいいと思う？どういう姿でやっていけばいいの？

C30 元気な姿。

T18 できないと言った人、どうして？

C (口々に) 悲しいから。

T19 おじいちゃんは見守っているって書いてあった。それを聞いて、どんな姿を見せたらおじいちゃんは喜ぶかなあ。

C (口々に) 元気、楽しそう 幸せ

T20 (手紙には) こういう思いがたくさん詰まっている。同じような経験はないですか。ノートに書いてください。

C 記述(3分間)

C31(机間指導中に指名されて発表) 昨年死んだばあちゃんに、「勉強、頑張れ」と言われたことが心に残っている。

T21 これから先、必ず皆さんはこういう経験をします。たくさんの経験をした人の話を聞きます。W病院のSさんです。

<GTの話の内容>(5分間)

●誕生に会って感じたこと・・・家族の思いや願いとからめて

●死と立ち会って感じたこと・・・老人の家

族への思いと、死に接した家族の様子

●子供に対する家族の思いや願い

T25 残りの時間で今日の振り返りをノートに書いてもらいます。(4分間)

授業者は、始めに命は自分のものであることを自覚させ、その上でその命が様々な人々の精神的なつながりや支え合いの中で生まれ、受け継がれていくことを理解させようと指導しています。それに対して、多くの子供がまとめの記述に「辛いことがあっても頑張っていきたい」と書き、C31のノートにも、

この話を読んで、去年死んだばあちゃんを思い出しながら読んでみると、後ろにいるような気がして、何回も振り返ってしまいました。これからも悲しいとき、悔しいとき、ばあちゃんを思い出します。

と書かれています。「祖母を思い出して頑張る」ということなのでしょう。

授業者は、T15で死を自分ごととして考えるように発問をしましたが、期待した答えは得られませんでした。そのため、T17やT19の補助発問を次々と投げかけています。結局、「祖父のために頑張って生きる」とは具体的にどう生きることなのかを、C21のように一人一人の言葉で明らかさせられなかったことが、何となく曖昧なままで終わった感じがする原因だと思います。『私たちの道徳 指導の手引き』では、なかなか実感として受け止められない生や死をとらえさせるために、

●限りある命を大切に生きた人の話を知っているか。

●これまでに生命のかけがえのなさを感じたことはあるか。

と例示されています。結果論ですが、「生きること」に注目させるためには、「死ぬ間際の祖父の孫の誕生日へのこだわり」に着目させた方がよかったのかもしれない。